

## Y18a 国立天文台「市民天文学」プロジェクト GALAXY CRUISE への参加理由調査

白田-佐藤功美子, 柴田純子, 田中賢幸, 小池美知太郎, 内藤誠一郎, 山岡均, 亀谷和久, 梅本智文 (国立天文台)

すばる望遠鏡ハイパー・シュプリーム・カム (HSC) を使った大規模戦略枠サーベイ (HSC-SSP) の第2期公開データを用いて、衝突・合体銀河の分類に市民が参加する「市民天文学」プロジェクト GALAXY CRUISE (<https://galaxycruise.mtk.nao.ac.jp>) は、2万天体以上に対し266万以上の総分類数を集め、2022年4月に第1シーズンを完了した。現在は、より暗い銀河を含めた第2シーズンを進めている。

2021年7月1日～25日にユーザーズアンケートを実施し、速報を2021年秋季年会で報告した。今回は、回答者をA1(定期的活用者)80名、A2(不定期的活用者)89名、B(不活用者)76名の3つのグループにわけ、それぞれのグループの参加理由と天文学への関わり方(属性)の時間変化を調べた。参加理由は、ユーザー登録時とアンケート回答時に、同じ選択肢を用意したところ、最も積極的に参加しているA1グループでは、「研究に貢献したい」「市民天文学に興味がある」が他グループに比べて登録時から高い割合を示していた。アンケート回答時にはその割合が上昇しているだけでなく、参加理由として選ぶ項目が増えていることがわかった。属性では、1. 宇宙・天文との関わり方(「より娯楽的」から「より学術的」を4段階で)、2. 宇宙・天文にかける時間(「より短い」から「より長い」を4段階で)を登録時とアンケート回答時に選んでもらったところ、A2、Bグループでは属性に大きな変化が見られなかったのに対し、A1グループでは、より学術的な志向かつ、より長時間関わっている人の割合が増えた。活発なユーザーの間で本格天文ファンが増えたと言えるだろう。

本講演では、アンケート結果を示しながら、参加者のモチベーションと今度の展望について議論する。